

ハロー! 熊野のみなさん よろしく

町では小、中学校に外国人の指導助手を派遣して、英語や国際理解の指導をお願いしています。新しく着任された方々をご紹介します。



クリストファー・
ライト先生
(小学校4校)

私は、アメリカから来たクリストファー・ライトです。今、頑張っているのは、日本語に慣れることと小学生の性格を知ること、コンピューターグラフィックです。

ビタミンAいっぱいの野菜をしっかりと食べて、元気を付けています。

日本に来る前に、1年ニューヨークに住んでいましたが、熊野に来て、空気がきれいで、自然が美しいので、元気になったようです。

なぜ日本に来たかという、日本が好きだったからです。

これまで3年間、日本で高校生に英語を教えました。

今回、小学生と授業をしたいと思ったのは、小学生は積極的で、恥ずかしがらず楽しく学習するので、仕事にも満足感を感じることができると思ったからです。

本当に、熊野の子どもたちは、かしく、思っていた以上に、楽しく英語に親しんでくれるので、うれしいなと思っています。これから、ますます楽しい授業を展開し、子ども達がクリスと自然に会話できるようと思っています。

熊野町のこともいっぱい知りたいので、ママチャリに乗っている私を見かけたら、気軽に声をかけてください。

"See you later."

P. S. すてきなweb siteを作るアルバイトもしています。アメリカの両親が住む自然を見たい人は、このweb siteをご覧ください。

<http://ravenwindranch.com>

はじめまして、私はフィリップ・ボタノです。アメリカ、ニュージャージー州の出身です。趣味は剣道とサッカーと将棋です。日本に住んで7年です。とても日本の文化に興味を持っています。だから、熊野町の筆の作り方を勉強したいです。

現在、熊野中学校と熊野東中学校で英語を指導しています。とても元気で礼儀正しい子どもたちです。例えば、必ず毎日挨拶をしてくれます。驚いたことはその挨拶は日本語ではなく英語なのです。毎日"Good morning, Philip"と言います。本当に素晴らしいことです。

これから子どもたちに英語を教えながらアメリカのことを知ってもらえればと思います。子どもたちから日本のこと、熊野のことを教えてほしいです。これからもよろしくお願ひします。

(学校教育課)



フィリップ・
ボタノ先生
(中学校2校)



▲仕切晴治さん(萩原)

「日系社会シニアボランティア事業」は、1990年度から始まり、中南米地域の日系社会へ日本の中高年層を派遣する事業です。仕切さんは、メキシコにあるプエブラの日本語学校に日本語教師として2年間派遣されます。

JICA(国際協力事業団)の「日系社会シニアボランティア」として、今年4日にメキシコに派遣される仕切晴治さん(萩原)が、5月23日、出発挨拶のため、町長を表敬訪問されました。約1時間の歓談の中で、町長から、「健康を第一に、元気でがんばってきてください」と激励を受けられました。

仕切さんは、学生時代から抱いていた日本語と日本の文化への情熱と、いつか海外で日本語を教えたいという夢を持ち続けてこられました。また、就職後は、仕事の傍ら、市内の公民館で日本語を教えるボランティアとして活動されてこられました。そして、昨年、シニアボランティアに応募されました。

「自分の好きな人生をスタートさせることは何歳からでもできる。『もうこれでいいかな』と思う気持ちをふっきって、自分の人生は自分のもの、自分の可能性にチャレンジしたいという気持ちを持つことができた。」と、応募から現在までの心境を語られました。また、「今まで海外で暮らしたことがないので、全てが楽しみ。いろいろなハプニングも、楽しみながら経験していきたい。そして、『日本の言葉と文化』の素晴らしさを、多くの人に伝えたい」と抱負を語られました。(企画課)

自分の可能性を信じて
仕切晴治さん
日本語教師としてメキシコへ